

Topic109 中国のグリーンビル

こんにちは、村上です。

環境保全技術分野の市場調査を行う Pike Research は、2010年5月に発表した報告書において⁽¹⁾、2010年時点で60億平方フィート(約5.6億m²)である認証グリーンビルが、2020年には530億平方フィート(約49.3億m²)にまで増えると予測しています。

また同報告書によると、現在はLEED(Topic87,88,106 参照)とBREEAM(Topic84,85,86 参照)による認証が大半を占めていますが、2020年までには中国およびインドにおいて開発されたグリーンビル評価ツールによる認証が全体の約30%を占めるようになるそうです。

とういことで今回は、近々グリーンビル市場の主要プレーヤーとなる、お隣中国の取組みについて紹介します。

1. 中国の建物環境性能評価ツール^{(2)、(3)}

2007年、中国の“住宅及び農村-都市開発省 (Ministry of Housing and Urban-Rural Development: MOHURD)”は、建物環境性能評価ツール; Green Building Design Label (GBDL) と Green Building Label (GBL)、を公開した。GBDLは新築建物を、GBLは少なくとも1年は運用された既存建物を評価するためのシステムである。

GBDL/GBLは、①土地、②エネルギー、③水、④資源、⑤環境、⑥運用管理、の6つの大項目から構成される。各大項目は、必須項目、標準項目、プレミアム項目、からなる。GBDL/GBLの仕組みは、LEEDよりもむしろNAHB National Green Building Standard (NAHB: National Association of Home Builders(注: 米国の組織))に近い。格付けは、最高の“3つ星”から、最低の“1つ星”の3段階である。

中国政府が定めたシステムではあるが、GBDL/GBLの取得に法的な義務はない。認証の有効期限は、GBDLが1年間、GBLが3年間である。プロジェクトの登録料は1,000中国元(約1.2万円(2010/8/27時点のレート))、評価料は40,000~50,000中国元(約48万~60万円(同))。

2. GBDL/GBLの普及の程度と中国政府の政策^{(2)、(3)}

評価ツールが公開され約2年が経過した2009年6月時点で、GBDL認証は10件、GBL認証は0件であった。一方、同時期、中国におけるLEED認証は100件を超えていた。

中国のグリーンビル開発はまだ初期段階であり、主に次の3つの課題を抱えていることをMOHURDは認識していた。

1. 技術の統合の欠如
2. ツールの改良と対象建物用途の拡大(病院、ショッピングモール、映画館などを評価できるようにする)

3. グリーンビルの大半は大都市に集中していること、中国における既存建物総数に比べてグリーンビルの総数が少ないこと

また、中国のグリーンビルの最優先課題はエネルギーの効率化であり、エネルギーの項目で点が低くてもその他の項目で挽回できる LEED のような仕組みは好ましくない。

とはいえ、最新の中国の 5 カ年計画の目標の一つがグリーンビルとなったこともあり、2010 年に入ってから GBDL/GBL への関心は高まっている。

出典

- (1) <http://www.pikeresearch.com/research/green-building-certification-programs> (2010/08/27)
- (2) http://switchboard.nrdc.org/blogs/kmo/china_launches_national_green.html (2010/08/27)
- (3) <http://solveclimate.com/blog/20100524/china-india-lead-developing-world-green-building> (20100827)

(村上の独り言)

2010 年 8 月 6 日、「ERS のグリーンビルサイト」が、「ERS サステナブルサイト」として生まれ変わりました。弊社の環境関連サービスの紹介に特化したサイトです。是非ご覧下さい。

<http://www.brown-green.com/>

ウェブサイトも新しくなったことすし、当メルマガもリニューアルしなくては・・・と考えています。いつになるかは未定ですが、しばらくお待ち下さい。

バックナンバーはこちらからどうぞ！

「ERS Sustainable Site」: <http://www.brown-green.com/>

未来が変わる。
日本が変わる。
チャレンジ
25
イー・アール・エスはチャレンジ25キャンペーンに参加しています。